

るるる



今号の表紙 グループホームサボテンの花2階

PICK UP

- 1 考えることも大切に楽しむ。
- 2 好きなこと＊ワンダーランド

HELLO! NEW STAFF

鯉谷さんのひとりごと

考えることも 大切に楽しむ。



店員役の職員さんに現金で代金を支払う入居者さん。

1つのフロアあたり9名の方がお住まいのグループホーム サボテンの花。
アットホームな空間でケアと向き合いながら過ごす様子を伺いました。

認知症ケアを含めた介助を受けながら入居者さんが暮らしているグループホームサボテンの花。「コロナウィルスの流行でいろいろと行動がしづらい中、『〇〇がしたい』『〇〇が食べたい』などのお声を聞き催しをしています。8月のカキ氷レクでは数種類のシロップから好みの味を選んでもらったり、9月の敬老会では『昔ハンバーガーを食べた』とお話を聞いてマクドナルドのハンバーガーセットを提供したりしました」(2階リーダー杉中さん)。毎月季節を感じられるようにしており、10月はハロウィンを意識してカボチャやおばけの飾りつけをしたもののハロウィンを知らない様子の入居者さん。説明する中で「お菓子」のキーワードに反応され「子どもの頃によく食べたわ」「お菓子買いに行きたいな、太るかな」と懐かしそうに話されていたので、ハロウィンではなく「駄菓子屋レク」を開催したそうです。

「ただお菓子を配るのではなく『入居者さん自身が見て、選んで、その場で食べる』ことを大切に、実際に現金をお渡しして金額を見て考えて頂くことに配慮しました。自宅にお住まいの時は日々誰かのために買い物をしてたものの今は感染対策で外出できないので、少しでもご自分で選ぶ楽しさを感じて頂けたようで良かったです」(杉中さん)。いろいろな制限がある中で、工夫をしながら取り組みを行なっている様子が見られました。



ケアマネジャー
安東さん

今回、グループホームサボテンの花2階にて行われた駄菓子屋レクリエーションでは、昔懐かしいお菓子や看板を目にされ、普段とは少し違った表情が見受けられ気分が昔に帰ったようでした。

サボテンの花2階
グループホーム
住所：大阪市東住吉区西今川4-22-11-2F

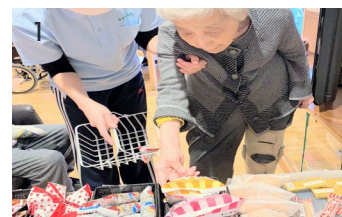


売場は昭和の駄菓子屋をイメージ



買える数もふまえて商品選び

るるる日誌 - その日の流れ -



1
買い物カゴを傍らに、陳列されたお菓子の中から好みの商品を選ぶ入居者さん。パッケージの見た目から何かが分からなかった物は「これは何？」と手に取られるシーンも。



2
「これ、いくら？」と店員役の職員・杉中さんへ質問する入居者さん。商品が並ぶ売場から品物を手に取り、買い物している感覚もじっくり感じて頂けている様子。



3
買い物が終わる、「何買ったん？」と見せあう入居者さん。ふだんは遠慮して頂いているおやつの交換なども、この時は職員さんが見守る中楽しんでいたそうです。

好きなこと＊ワンダーランド

休みの日、仕事終わり、空き時間をどう過ごしてリフレッシュしているの？

“知る人ぞ知る、実は〇〇が好き！”というお話を
いろんな施設・事業所の職員さんに聞きました。

聞いた人：ライフェル駒川、寿幸苑、
訪問、サボテンの花の職員さん

「何でもリメイクしちゃう」と話すのは須藤さん。先日も「お気に入り
のニット、丈が長くて着られない」と娘さんに言われ、着丈を調整。
余った布は丸椅子のカバーに。「少しのアイデアで捨てる心苦しさも収まり、お尻も温かい冬を過ごせそう」



ニットの裾とセーターで作った丸椅子のカバー



【 答えてくれた人 】

ライフェル駒川の介護士・須藤美和子さん。「娘が社会人になり生活リズムが合わず、お互いできることを分担。娘がしてくれるのは料理。それでも十分、家事が楽になりました」

「カラオケが好き」という井貫さん。「このご時世で行きづらいが、歌うとスッキリするので友人と遊ぶ時に
行きたくなる。ふだんはGLAYやL'Arc-en-Ciel、今は浜田省吾にハマっていて『もうひとつの土曜日』などの名曲を歌いたくなります」

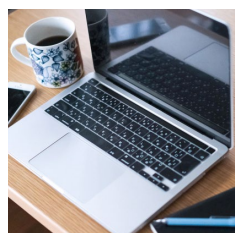


カラオケで歌ってスッキリ



【 答えてくれた人 】

寿幸苑3階の介護士・井貫朋春さん。「夜勤が終わった後は家でビールやハイボールを呑むのが日課。“昼間から呑む”という背徳感を感じながら、そのまま寝ちゃうのが好きです」

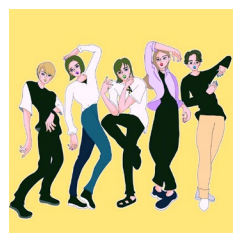


いま流行りでもある
オンライン レッスン

ヘルパーステーションの安田さんがハマっているのは、韓国語スクールのオンライン レッスン。「実は昔、韓国に留学していたことがあるんです。その当時の復習とリベンジもかねて、受講をし始めました。今3カ月目！とても楽しいです」

【 答えてくれた人 】

ヘルパーステーションに所属する介護士の安田智子さん。高校1年生と中学3年生のお母さんで、コロナ禍以前は友達家族を招いてワイワイ楽しく過ごすのが好きだったそうです。



iPadで描いた友達との
ジョジョ風イラスト

「暇があるとiPadで絵を描いてしまう」という西さん。「2月に入手してから友達の子どもや知り合いの似顔絵を量産してます。『ジョジョ』が好きなので友達をジョジョ風イラストにして楽しんだり。ウエルカムボードを頼まれた時は嬉しかった！」

【 答えてくれた人 】

ライフェル駒川の介護士・西こゆきさん。「休みは昼まで寝て、漫画を読んで、絵を描いて、プロ野球中継を観て、友達とバッティングセンターに行って、ラーメン食べて満喫してます」



「ゲームにハマった」という坂本さん。「ステイホーム中、家の中でポケモンを捕まえて集めたり、育てたり、子どもと一緒に『伝説のポケモン』と戦ったり。親子3世代で楽しんでいます。ポケモンの名前も覚えるようになりました」



特にハマっているのは「ポケモンGO」



【 答えてくれた人 】

小規模サボテンの花でナースとして勤務する坂本 梨沙さん。「羽曳野出身ですが夫が転勤族のため名古屋、岐阜県と転々としていました。住んだ中で印象深いのは静岡県です」

「ほぼ毎日、晩酌で刺身を食べる」という三木さん。「休みの日は丸のまま買った魚をさばいて刺身や煮つけ、炊き込みご飯に。活きたアワビやサザエをさばいたり、時々漁港直送の魚を取り寄せて新鮮な魚介類を楽しんだりもしています」



魚介類をさばいてお酒のお供に



【 答えてくれた人 】

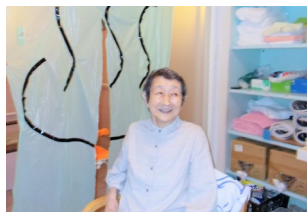
寿幸苑やライフェル駒川で勤務してきた介護士の三木 大介さん。「コロナ前は家族で旅行に行くのが楽しみでした。家ではNetflixを観たり、娘と〇〇こっこで遊んだりしています」

各事業所で、ときには外にとびだして、最近行なわれた さまざまな活動を紹介します。

1 事業所で温泉気分を

日時：9月22日（水） 場所：小規模サボテンの花

「コロナ禍で外出できない利用者さんに温泉気分を味わって頂きたい」と温泉レクを実施。手作りの温泉のれんをくぐって順番に入浴された後は、お弁当を食べたり記念撮影したり。つかの間の旅行気分を楽しめました。



2 アイデアが生きた秋祭り

日時：10月29日（金）～10月31日（日） 場所：寿幸苑

今年は屋外にも飲食スペースを設置。職員お手製のグルメを手にとり外に出た入居者さんは「気持ちいい」と言いながら、いつもより食が進んだ様子。31日は突然停電したものの、灯りを並べライトアップして楽しみました。



3 施設と街の架け橋として

日時：10月31日（日） 場所：寿幸苑

地域の人との交流活動に励むチーム Re-Lo がハロウィンイベントを開催。感染対策の中、約100名の方が来場されました。「同じ街で暮らす一員として、入居者さんと地域の人と交流する場を持ちたい」。目標にむけて少しずつ地道に活動しています。



4 目標がある暮らし

日時：11月23日（火） 場所：ライフエル駒川

自宅にいた頃の「天王寺まで自由に外に出かける生活」をライフエルでなら実現できると思い、老人保健施設から転居して来られた利用者さん。シニアカーをレンタルしてからはご家族と練習したりリハビリで体操にも参加。生活への意欲に変化が感じられます。



Hello! NEW STAFF



ケアワーカー
柴田 翔さん
(ライフエル駒川)



ケアワーカー
柚木 亜海さん
(ライフエル駒川)



相談員
高野 一樹さん
(ライフエル駒川)



ケアワーカー
奥坊 彩香さん
(寿幸苑)



事務員
岡田 広子さん
(本部)

出身	大阪市	大阪府	大阪府	東京都 品川区	愛媛県
好きな食べ物	カツパサンド	とり肉	お酒	アボカド	やきとり
好きなこと・特技	洋裁・和裁	音楽鑑賞 映画・アニメ鑑賞	格闘技	ドラマ鑑賞	温泉めぐり

※10月～11月末の入職者を紹介しています

鯉谷さんの



ひとりごと

No.014

避けられない“ずれ”に向き合う

新しい評価制度について、皆さんお忙しい中ご対応いただきありがとうございます。今回大変なことは、「操作方法やルール・評価項目の理解が難しい」という点と、「評価する・される」そのものに伴うしんどさ」という点に分けられると思っています。後者について少し詳しく僕の考えをお伝えします。一般的に自己評価と他者評価には“ずれ”が必ずあります。一方で「評価する・される」とは「“ずれ”を伝え、知ること」でもあります。ただ、“ずれ”を伝えることも、“ずれ”を知ること、ちょっとしんどいと感じること

が多いですね。僕もあまり好きではありません。これまでの評価制度では“ずれ”が良くも悪くも曖昧にできました。いま法人では、この“ずれ”をより明確することと、より“ずれ”を小さくしていくことを目指しています。今回の評価制度の変更はそのための施策の一つです。“ずれ”は良くないことではありますが必ず起きます。これは避けようがない。なので、しんどい事も多いですが、この“ずれ”から目を背けず、大切に扱えるような職場になることが大切ではないかと思うのです。